

五、大會の内容
 ○フアツシヨ、社會フアツシヨ粉碎

1、開 會 司會者 矢野勇助

過去に於ける労働運動は活潑であつた、然るに五、一五事件と之に連続して起つた資本家階級の軍艦は加軍し未組織労働者はストライキをすることも出来なくなつた、今回政治的に意義ある九州文化の中心地福岡に於て開催するを喜ぶ、本日の大會は軍苦しき空気に包まれてゐるそれは會場の出入りに身體検査をされ、一言も洩らさず聞いてゐる臨監の警官があり、吾々の不^平、不満を打明けて言ふ事が出来ない即ち政治的自由を奪はれて居る事が原因だ、農村に於ては借金に費められ窮迫が深刻になつて、家、田畑なき者でさへ七、八百圓の借金を負つて

苦るしんでゐる、收穫半分以上の小作料は高い、小作料をまけるの要求は當然である、六十數年來の大旱魃と暴風に困る凶作、收穫皆無で苦るしみ、小作米、飯米問題を起してゐる、土地に對しては最後迄戦へ政府、役人に委せてはおけぬ、農村負債整理も結局市や役場から借替へたのみで新らしき借金に苦しんでゐる。自作農の低利資金も金は返せず、結局土地に利をつけて返さねばならぬ有様だ、早害救済土木事業も駄目だ、縣當局には何にも具體的なものはない、只代作料として反壹圓五拾錢を支給される事だけが決定してゐる、それも嘘で貰へば詐欺罪で訴へる事が出来るのだからこれも結局苦しむ者を罪に落す爲のものにしかならぬ、過去十年の闘争を省りみ一層組織を固めてこそ今日の苦しみを打破する事が出